

しようしゆい

正思惟

正思惟は、日常の善悪を正しく考え、誤りないよう判断することをいう。この時は強い意志や、正しい判断が、行為の是非を決定するものである。

曹洞宗教学部『仏教読本1』曹洞宗宗務庁

正思ともいう。正見が全体に対する総合的、基本的見解であるのに対して、正思惟は個々の実践の場合における正しい決意である。これは実際行動に入る前の正しい意思作用である。

經典では貪欲・瞋恚・愚痴などの煩惱障しょうげ碍をはなれた正しい思惟意思の作用であるとされる。意思が誤ったものであるならば、ここからは誤った行動が現れるのである。しかし意思や決意が貪瞋痴のない正しいものであるなら、その後には生ずる実際行動も正しいものとなるのである。

水野弘元『仏教の基礎知識』春秋社

どんな思いでこの行動をするのか、もしそこに貪瞋痴があるのであれば正し、善であれば勇気を持って行動する。